

4 各種関連計画・ビジョンの整理

愛知県における各種計画、ビジョンや取組等、本調査に関連する部分について、整理した。

(1) あいちビジョン 2030 (2020 年策定)

■策定趣旨

リニア中央新幹線が全線開業し、スーパー・メガリージョンの形成が期待される 2040 年頃を展望し、2030 年度までに重点的に取り組むべき政策の方向性を示す。

■2030 年に向けた基本目標

- めざすべき愛知の姿を見据え、今後 10 年の地域づくりに着実に取り組んでいく必要がある。
- 目標年度である 2030 年度に向けては、2022 年秋の開業をめざすジブリパークや 2026 年のアジア競技大会、2027 年のリニア中央新幹線開業などの数多くのビッグプロジェクトを着実に進め、地域の更なる発展につなげていくとともに、これらを最大限活かして、イノベーションを創出する好循環を生み出すことで、将来にわたって、日本の成長をリードし続ける愛知を形づくっていく。
- また、目標年度を同じくする SDGs の達成に向けては、暮らし・経済・環境の 3 側面の調和を図り、持続可能な社会を実現していく。
- あわせて、現在も県民の生活や経済活動に深刻な影響を与えている、新型コロナウイルス感染症の危機の克服に全力で取り組み、これを乗り越えていく。
- こうした考えのもと、2030 年度の地域づくりに向けた基本目標を、以下のとおり設定する。

暮らし・経済・環境が調和した輝くあいち
～危機を乗り越え、愛知の元気を日本の活力に～






■めざすべき愛知の姿

- ① 危機に強い愛知
感染症や自然災害等のリスクに負けない強靱な地域へ
- ② 全ての人が生涯輝き、活躍出来る愛知
多様性を尊重し、豊かな時間を楽しみながら、全員が活躍する社会へ
- ③ イノベーションを創出する愛知
柔軟な働き方の中で、世界とつながり、新たな挑戦と未来を拓く創造が可能な社会へ
- ④ 世界から選ばれる魅力的な愛知

県土をスマートに活用しながら、スーパー・メガリージョンのセンターを担い、首都圏の社会経済的な機能を代替しうる大都市圏へ

■重要政策の方向性

<p>①危機に強い安全・安心な地域づくり</p>	<p>【進捗管理指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続計画を策定している中小企業割合 ・交通事故死者数 等
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の克服 ・新たな大規模感染症リスク等への対応 ・ハード・ソフト両面からの防災・減災対策 ・安心して暮らせる地域づくり 	
<p>②次代を創る人づくり</p>	<p>【進捗管理指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中にICTを活用して指導できる公立学校の教員の割合 ・英検準2級以上又はそれ相当の英語力を有する県立高校3年生の割合 等
<ul style="list-style-type: none"> ・創造性を伸ばす教育の推進 ・多様性を尊重する教育の推進 ・グローバル人材の育成 ・魅力ある学校づくり 	
<p>③すべての人が生涯にわたって活躍できる社会づくり</p>	<p>【進捗管理指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働力率 ・管理的職業従事者に占める女性の割合 等
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の活躍促進 ・高齢者の社会参加の促進 ・若者や就職氷河期世代などへの支援 ・障害のある人の活躍支援 ・外国人県民の活躍促進 ・人生100年時代の学び直し ・健康長寿 	
<p>④安心と支え合いの社会づくり</p>	<p>【進捗管理指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均理想子ども数と平均予定子ども数の差 ・健康寿命 等
<ul style="list-style-type: none"> ・出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまで切れ目のない支援 ・地域包括ケアシステムの構築支援 ・障害のある人の地域生活と医療・療育の支援 ・外国人県民の生活支援 ・安心できる医療体制の構築 ・困難を抱える女性・子ども・若者などへの支援 	
<p>⑤豊かな時間を生み出す働き方が可能な社会づくり</p>	<p>【進捗管理指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業のテレワーク導入率 ・一般労働者の年間総実労働時間数 等
<ul style="list-style-type: none"> ・新技術を活用した効率的な働き方の促進 ・多様で柔軟な働き方の促進 ・ワーク・ライフ・バランスの更なる普及拡大 	

⑥イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ステーションA i を中核とした国際的なイノベーション創出拠点の形成 ・次世代産業の振興 ・中小・小規模企業の持続的発展と生産性の向上 ・産業人材の育成・確保 ・スマート農林水産業等による生産力の強化 ・県産農林水産物の需要拡大 	【進捗管理指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発費の全国シェア ・農業産出額 等
		
⑦世界とつながるグローバルネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・Aichi Sky Expo の活用などによるMICE の誘致・開催と国際観光都市の実現 ・アジア競技大会を活用した戦略的なネットワークづくり ・グローバル市場の更なる獲得と海外からの投資促進 ・海外からの人材獲得 ・海外とのパートナーシップの構築 	【進捗管理指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議の開催件数 ・外国企業の誘致件数 等
		
⑧スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中京大都市圏の拠点性の向上 ・交流圏の拡大に向けた戦略的広域連携 ・持続可能でスマートな地域づくり 	【進捗管理指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・企業の本所（本社・本店）の数の全国シェア ・労働力人口の全国シェア 等
		
⑨選ばれる魅力的な地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ジブリパークを活用した圏域全体のプロモーションの展開 ・世界に向け創造・発信する文化芸術の振興 ・アジア競技大会始め国内外から注目されるスポーツ大会の開催 ・愛知ならではの観光の推進 ・観光交流拠点としての機能強化、人材育成 ・居住地として選ばれる魅力の創造・発信 	【進捗管理指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・観光消費額 ・愛知県の転出入者数 等
		
⑩持続可能な地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素社会を見据えた地球温暖化対策の推進 ・人と自然との共生の実現 ・循環型社会づくり ・持続可能な社会を支える人づくり 	【進捗管理指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスの総排出量の削減率 ・SDGs の理解度 等
		

出典： <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kikaku/aichivision-2030.html>

(2) あいち・とこなめスーパーシティ構想(あいち・とこなめスーパーシティ構想「基本的な考え方(案)」)(2020年)

中部国際空港島・周辺地域を中心に、愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」に国際会議や見本市などMICE を誘致し、わが国を代表する国際観光都市を実現するとともに、最先端技術・サービスの社会実装フィールドとすることで、イノベーション創出の拠点化を進める。

- ・ 中部国際空港島・周辺地域を、最先端技術の実装フィールドの中心に位置づけ、早期のサービス展開を目指す。
- ・ スタートアップ支援の拠点「ステーション Ai」(2024年整備予定)の機能を活用

し、国内外の有力なスタートアップと大学、企業を巻き込んだサービス開発・実証が、実用化していくサイクルを形成する。

- ・実装フィールドで得たノウハウを元に、市内・県内へ先端技術サービスの普及を促進し、地域の課題解決を図る。

■コンセプト

- 実装できる先端技術をまるごと取り込み、世界 No. 1 の国際観光都市を実現
- テクノロジーで、空間・時間マネジメントの新たな形を提案
- 世界中からイノベーターを集め、最先端を創り続けるショーケース

■プロジェクトの概要

- 未来を先取りする移動・物流システム
 - ① 空港島内の回遊ならびに空港島外からの移動と輸送を完全サポートする『自動運転・自動搬送サービス』
 - ② 空域管理で安全な空の移動・物流を実現する『空飛ぶ車やドローンによる空の移動・物流サービス』
 - ③ すべての移動情報や空間情報、イベント等の開催情報などを連携して、初めての人にも優しい移動を実現する『スマートモビリティサービス』
 - ④ 移動時間の中で会議ができる空間の創出など『新しいモビリティの価値創出』
- すべての人々に満足を届ける最先端おもてなしサービス
 - ⑤ パスポートレスや手ぶら観光を実現する『OneID・キャッシュレスサービス』
 - ⑥ 利用者の属性に対応したサービスを提供する『パーソナルコンシェルジュ』
 - ⑦ 愛知県の主要な観光地を体験できる『バーチャルあいち』
- ゼロ・カーボンで世界最高水準のレジリエンス機能の実現
 - ⑧ 水素エネルギーを利活用した『クリーンエネルギー』モデルの構築
 - ⑨ 都市空間のエネルギー構成の全体最適化を図る『次世代エネルギーマネジメントシステム』
 - ⑩ 都市インフラ管理等の効率化・自動化を実現する『次世代アセットマネジメントシステム』
- 人口減少社会にふさわしい人に優しい社会の実現
 - ⑪ 病歴、医療データ等を解析する『健康情報管理システムによるヘルスケア』
 - ⑫ ライフライン情報や行政情報をデジタル化して様々な人の暮らしをサポートする『ライフサポート・プラットフォーム』
- 世界最先端を創り続けるイノベーションエコシステムの構築
 - ⑬ 開発から実装まで連続して行える『オープンイノベーションエリアの創出』
 - ⑭ 『スーパーシティの深化と市内展開』により空港と地域の一体的な発展を実現

出典：<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kikaku/aichi-supercity1.html>

(3) あいち観光戦略 2021-2023 (2020 年策定)

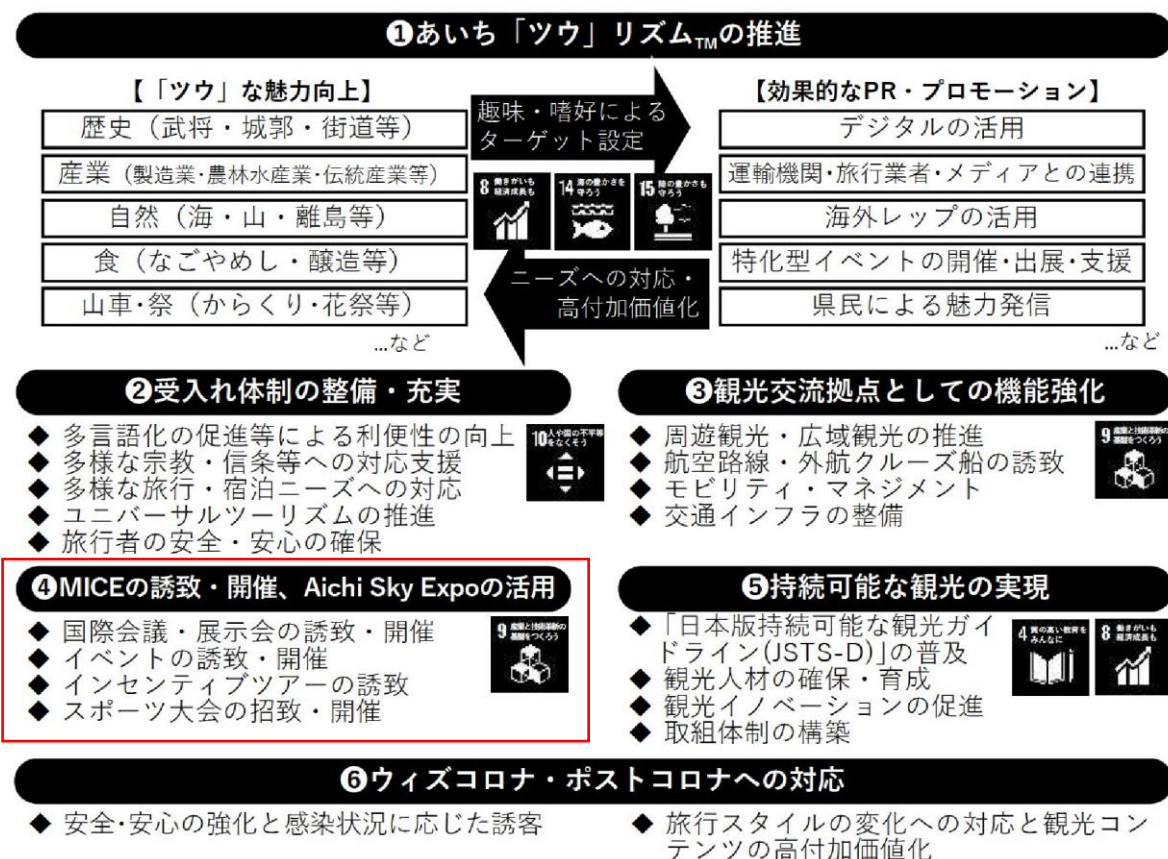
■戦略の目的

愛知県観光振興基本条例が掲げる「魅力ある活力に満ちた地域社会の実現及び県民生活の向上」に向けて、観光関連産業の振興を図る。

■目指すべき姿

～“Heart”of JAPAN セカンドステージ～
あいち「ツウ」リズム_{TM}を推進し、独自の強みを発揮する「観光県」

■施策の柱



出典：<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kanko/senryaku2023.html>

(4) あいち経済労働ビジョン 2021-2025(2020 年度策定)

■策定趣旨

○現行の「あいち産業労働ビジョン 2016-2020」の計画期間の終了を受け、また、「あいちビジョン 2030」の方向性に沿った産業労働施策の展開に向けて、新たな計画を策定。

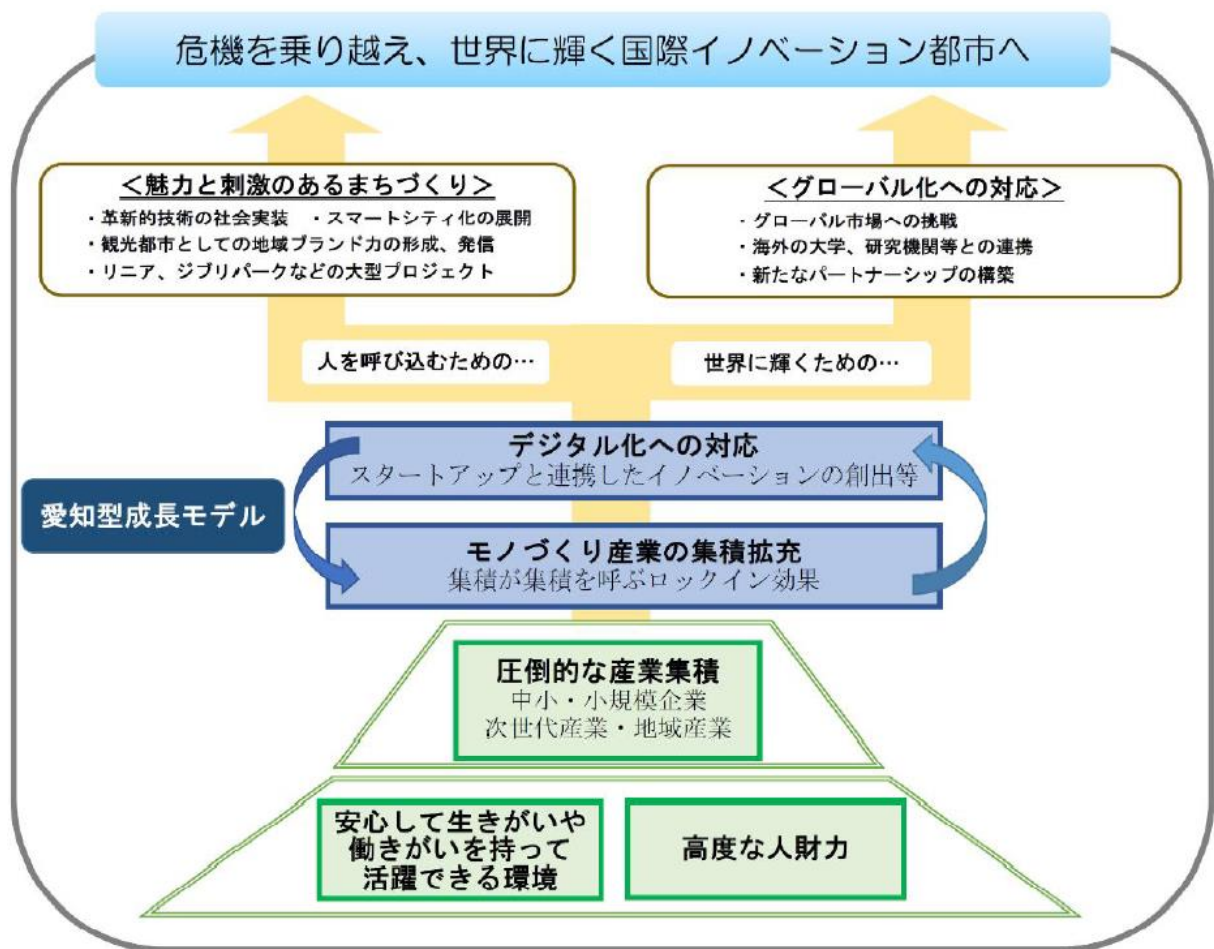
■計画の目標

危機を乗り越え、世界に輝く国際イノベーション都市へ

- ・産業集積の礎となる中小・小規模企業の企業力強化や持続的な発展、次世代産業の振興を図るとともに、誰もが安心して生きがいや働きがいを持って活躍できる

環境づくり、産業を担う高度人材づくりを着実に進めていく。

- ・愛知の成長の源である集積が集積を呼ぶロックイン効果によりモノづくり産業の更なる集積を図るとともに、スタートアップと連携したイノベーションの創出等によるモノづくりとデジタル技術の融合など、技術革新による社会経済への変化に対応した愛知独自の成長モデル（愛知型成長モデル）を進化させ、更なる産業競争力の強化を図っていく。
- ・愛知型成長モデルを原動力に、オンライン等での交流も含め、国内外から企業や人材を呼び込む魅力や刺激のあるまちづくりを進めるとともに、海外市場の開拓や外国とのパートナーシップの構築など地域のグローバル展開を図ることで、「産業首都あいち」として国際イノベーション都市づくりを進めていく。



出典：愛知県資料

■施策の体系と具体的な施策

緊急対策 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・ 緊急支援
現下の危機に対応し、事業の継続や就労及び雇用維持を支えるための施策
- ・ 強靱な経済構造の構築
「新しい生活様式」や将来の感染症リスクにも対応できる強靱な経済構造の構築を目指す施策
- ・ 反転攻勢に向けた需要喚起
収束後を見据え、経済活動を安定的な成長軌道に戻すための施策

柱1 次世代産業の振興・イノベーションの創出

- (1) 次世代自動車産業の振興、新たなモビリティサービスの普及促進
- (2) 航空宇宙産業の振興
- (3) ロボット産業の振興
- (4) 革新的技術の社会実装の推進に向けた環境整備
- (5) スタートアップ・エコシステムの形成促進

柱2 地域産業の活性化

- (1) 商業、サービス産業、地場産業の振興
- (2) 課題解決型産業の育成
- (3) 農林水産業の振興

柱3 観光・交流を通じた地域の魅力・ブランド力の向上

- (1) 愛知県ならではの魅力向上と効果的なPR・プロモーション
- (2) ジブリパークやMICE、スポーツ大会を通じた誘客
- (3) 受入体制の整備・充実と観光交流拠点としての機能強化

柱4 グローバルな産業拠点機能の向上

- (1) 国際ビジネスの拡大支援
- (2) 立地環境の整備・企業誘致の推進
- (3) 研究開発機能の強化

柱5 誰もが安心して生き生きと活躍できる環境づくり

- (1) 若者の活躍支援
- (2) 女性の活躍促進、男女共同参画社会づくり
- (3) 高齢者、障害者の活躍支援
- (4) 外国人の活躍支援、多文化共生社会づくり
- (5) 就職氷河期世代の活躍支援
- (6) 生き生きと働ける職場づくり

(7) 感染症の拡大に対応した雇用維持や新規学卒者の就職への緊急的な支援

柱6 愛知の産業を担う人財力の強化

- (1) イノベーション人材の育成
- (2) 高度なモノづくり人材の育成
- (3) 国内外からの人材の確保
- (4) キャリア教育・リカレント教育の推進

基盤施策 中小・小規模企業の持続的発展

- (1) 経営基盤の強化や経営革新、事業承継の支援
- (2) デジタル技術の導入の支援
- (3) 人材の育成・確保の支援
- (4) 感染症や災害リスクに対応する取組の支援
- (5) 中小・小規模企業の魅力発信

出典：あいち経済労働ビジョン 2021-2025

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/sangyo-seisaku/keirou-vision2025.html>

(5) 愛知・名古屋 MICE 推進協議会の取組内容

■令和2年度事業計画

1 事業方針

当協議会設立から現在まで実施した事業のフォローアップ及び実施効果を検証しつつ、誘致プロモーション事業を実施する。ターゲットはアジアに加え、東京都と連携して欧米対象事業を実施するなど、グローバルな活動を積極的に行う。

また、令和2年度の新たな取組として、MICE 関係者からのニーズが高く当地域の強みである産業視察やユニークベニユーのモデルツアーの開催、名古屋商工会議所と連携したブレジャー推進プロジェクトを実施するとともに、引き続き、大規模 MICE の開催支援等を通じた地域を挙げてのおもてなしの機運醸成等、MICE 誘致に向けたさまざまな取組を行う。

なお、令和2年に入り、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によって MICE 需要は大きな影響を受けていることから、事業の実施にあたっては、状況に合わせて柔軟な対応を行う。

2 事業内容

(1) 情報提供事業

MICE セミナーの開催

(2) 誘致プロモーション事業

ア 国内 MICE 見本市への出展

イ 海外 MICE 見本市への出展

ウ 海外セミナー・商談会への参加

エ 日本政府観光局（日本政府観光局（JNTO））招請事業への参加

オ 都市間連携事業の実施

カ ブレジャー推進プロジェクトの実施

キ MICE 関係者向け専門誌への広告記事掲載

(3) 開催支援開催支援事業

ア 大規模 MICE への開催支援

イ ギブアウェイの作成

(4) 調査研究調査

ア 大規模 MICE 案件の誘致に向けた情報収集及び調査

イ 「ミーティングプランナーズガイド」「ユニークベニユーガイド」等の掲載情報の更新

ウ テクニカルビジット&ユニークベニユー・モデルツアーの開催

(5) WEB ページの管理運営

愛知・名古屋 MICE 推進協議会の WEB サイトについて、定期的な更新を行い、より多くの MICE 関係者に興味を持っていただけるような情報発信を行う。

出典：<https://aichi-nagoya-MICE.jp/overview/index.html>

5 県の過年度調査の整理

県が作成した MICE 関連報告書等の検討経緯について整理を行った。

■ 「国際観光都市機能整備調査事業」(2018 年度、2019 年度)

- ・ 中部国際空港エリアは国際観光都市を目指す上で高いポテンシャルを有しており、民間企業の知見・技術・資金を活用することによって、研究会の取りまとめに沿った機能の整備を実現できる可能性が十分にある。
- ・ 愛知県においては、引き続き民間企業にヒアリングを行いながら、MICE 施設、宿泊施設、アフターコンベンションにも資するエンターテインメント施設等について、中部国際空港エリアのポテンシャルや市場規模に相応しい種類や機能、規模などを具体的かつ詳細に検討していくことが重要。
- ・ 当該エリアの整備に留まらず、空港を起点とした周遊観光を促進していくことにより、地域全体の魅力向上を図る検討も必要。
- ・ 大規模開発を行った際の交通量の予測調査や、南北に長い空港島内の円滑な移動手段の確保などについては、国際観光都市の具体化の進展に合わせて検討すべき課題といえる。
- ・ 国際観光都市に相応しい魅力的な施設や機能が早期に導入されるよう、スピード感をもってさらに検討を深めていくことが求められる。

【MICE 機能の拡充に向けて】

中部国際空港やその周辺エリアにおける強み

- ・ 空港隣接立地特性：言語や商習慣、ビジネスマナー、文化の違いといった多様性への対応力を培う土壌がある。
- ・ 国内唯一の保税展示場である愛知県国際展示場を有する。

一方で、国内外の主要な MICE 施設の事例と空港島を比較すると、展示場以外の機能・施設が質・量共に不足している。

【MICE ビジネスにおける課題】

- ・ 愛知県国際展示場は主に B to B (企業同士の商談) の場として、対象は海外企業や、海外と取引を行う国内企業が対象として想定されるが、海外型の展示場運営 (商談中心) を行うためには、国内の展示場との違いを鮮明にし、海外企業の商習慣に対応していくための運営戦略について検討を深めていくことが課題
- ・ 閣僚級会合などのハイレベルな国際会議に対応可能な会議場やスイートルームを備えた高級ホテル、多様な客層に対応できるエンターテインメント施設が不足しており、それら機能の整備についても検討が必要。

【事業実施に向けた課題】

- ・ 空港島の現状を見ると、展示場以外の MICE 機能が不足していることに加え、

大都市のようなエンターテインメント機能を持つ周辺環境も無い。このため、持続可能な MICE 事業を運営していくためには、Aichi Sky Expo に加え、ハイレベルな国際会議に対応可能な会議場、宿泊施設、そしてアフターコンベンションを提供するエンターテインメント施設等を一体的に整備していく必要がある。

- ・民間事業者へのヒアリングにおいては「会議場、展示場、ホテル、エンターテインメント施設を一体的に整備することで、MICE 施設の機能が最大限発揮される。特にビジネス客から家族連れの訪問客まで幅広く惹き付ける、エンターテインメント機能が MICE には欠かせない」との声も聞かれた。
- ・しかしながら、これら施設の一体的整備、またその後の運営においては多額の初期投資費用や維持管理費が必要となってくるため、その採算性を見極めていくことが今後の主要な課題。

【周遊観光の拠点として必要な機能の整理】

■観光案内機能

- ・利用者の関心等に応じ、旅行計画を提案し、必要なサービスの手配をワンストップで実施。

■多言語対応機能

- ・英語を含め複数の外国語（対面、表示等）で提供。

■情報提供機能

- ・多数の来訪客に対応できる情報提供・接客や待合のスペースを具備。

■観光コンテンツ表示機能

- ・日本各地の観光の魅力や旅行者に必要な情報を、VR 等の最先端技術等を活用し、効果的・適切な方法で発信。

【立地特性を生かした観光資源との連携】

- ・中部国際空港周辺は、武将観光や産業観光などの様々な観光資源を有するとともに、中央日本エリア 9 県を繋ぐ広域観光ルート「昇龍道」の起点ともなっている。
- ・中部国際空港を拠点として、愛知県、近隣地域の様々な観光地や観光スポットは高速交通ネットワークで結ばれており、航空機を使用すれば、就航先の都市も含めた、広域的な観光地にアクセスが可能である。また、空港機能を最大限活用すれば、主に富裕層のプライベートジェット、チャーターヘリ等での自由な国内移動も可能となる。
- ・国内外から選ばれる MICE 地域となるため、空港が隣接した国内随一の立地特性を活かし、MICE 来訪客向けに豊富なエクスカージョンを提供することで、国内外の他地域には無い強みを発揮していく事が必要である。

【観光に関する視点】

- ・空港隣接立地という、アクセス面での強みを最大限活用すべき。
- ・愛知県に留まらない、周辺地域も含めた広域的な観光資源を後背圏に有するとと

もに、モノづくり産業の集積地としての、当地域ならではの観光資源を有する。これらを積極的にPRしていくべき。

- MICE 来訪者が、通常行きにくい場所でも、ダイレクトにアクセス出来る交通手段を整備することが効果的。
- 多彩なイベントや魅力的なショッピングモール、エンターテインメント、日本の文化に触れられる機会を設け、賑わい空間を創出する必要がある。

■地域振興の視点

- 中部国際空港の MICE 拠点において、地場の産品やコンテンツを紹介し、購入に繋げるとともに、地域資源を活用したユニークベニューにより、MICE 拠点を核として、周辺地域に経済循環をもたらす仕組みを構築していく必要がある。
- 周辺地域の人々も楽しむことの出来るよう、快適な公共エリアや屋外ショー、オープンスペースにより、子供連れの家族、若者から高齢者までが気軽に集える、憩いの場を提供していく必要がある。

■アクセスに関する視点

- MICE 機会の増加は、交通機関の混雑を招く事から、人流のマネジメントを、周辺地域の主体が連携し、総合的に実施していく必要がある。
- 将来的には、観光 MaaS 等の新たな仕組みを導入し、利用者の利便性を高め、周辺地域への来訪を活性化していく事が有効である。

■MICE 施設の機能に関する視点

- 国際展示場と国際会議場には呼び込める MICE の種類が異なり、それぞれの機能強化が必要である。特に、大規模な国際会議を誘致するためには、宿泊施設の充実とともに、国際会議に付随する展示スペースが必要となる。
- 大規模な国際会議の場合は、家族同伴で訪れるケースがあり、家族も長期間くつろぐことが出来る施設や、魅力的で満足度の高い観光コンテンツを具備していくことも重要な要素となる。また、MICE 参加者に対し、周辺地域に観光に出かけてもらうための環境整備やフリーパス等のインセンティブも必要となる。
- Aichi Sky Expo の特徴の一つである保税展示場の強みを活かした展示会の誘致を進めて行く必要がある。

■次世代型の国際観光都市のあり方

- 空港島を中心に、自動運転、ロボット、AI 等を活用した最先端技術・サービスを積極的に導入し、人やモノの移動に伴う交通渋滞や混雑の緩和、空港利用者や地域住民の利便性向上等に取り組むスーパーシティ構想の実現に向け、様々な分野の最先端技術・サービスを結集させることで、世界の先駆けとなる「未来都市」のショーケースを実現することが求められている。
- 最先端技術・サービスの実証実験の場とし、観光面だけでなく、産業科学技術面での公益性を図っていく必要がある。

- ・IT、サービス、観光など、バリエーションに富んだビジネスチャンスによって、大手企業のみならず、中小企業から、スタートアップまで様々な企業のビジネス参画が促され、多種多様な雇用の創出、旺盛な起業意欲の促進へと繋げていくことが求められている。

■「中部国際空港・常滑市における都市機能強化調査事業」(2019年度)

①【自動運転技術を中心としたスマートなヒト・モノ輸送サービスの提供に向けて】

- ・自動運転本格導入までには、現状では技術と採算性が保証されていない自動運転本格導入までの経過措置として、通常のドライバーによる輸送サービスが想定できるが、我が国ではそもそもドライバー不足が課題であることに加え、タクシー業法によってタクシー事業者の既得権が保護されているため、二種免許の取得条件の緩和等の大胆な規制緩和策が求められる。
- ・空港島における道路管理者の一元化、交通ルールポリシーの統一化。
- ・自動運転専用道やテストセンター、自動運転車両プール等の必要機能の設置。
- ・自動運転等技術実証基盤整備にかかる初期費用の負担。

②【カメラ映像やパーソナルデータの取り扱いに向けて】

- ・個人情報情報の保管・利用に関する責任者の明確化。(ただし、民間事業者にはリスクが大きい)

③【スーパーシティ基盤となる、データ収集・連携・活用基盤(都市OS)の確立に向けて】

- ・個別課題の解決のためのデータ収集環境等の整備(既存都市機能のスマート化、既存アプリケーションの改良)。
- ・データ連携基盤上でのデータ統合に向けた各種データの統一規格化。
- ・データ連携基盤を活用したデータビジネスを行うスタートアップ企業等の誘致環境の整備。

④【スーパーシティ基盤の運用体制の整備に向けて】

- ・事業者間情報連携、官民協力体制整備のための官民連携コンソーシアムの設置。

6 本章のまとめ

(1) 企業・産業の集積による MICE 機会の創出

- ・愛知県では、モノづくり企業を中心に世界的な企業が集積しており、企業ミーティング、研修、工場見学、報奨旅行等のビジネス交流が盛んである。
- ・Aichi Sky Expo の整備により、国際展示会や大規模イベントの開催機会を有する。

(2) 中部国際空港を核とした広域ネットワーク

- ・中部国際空港により、国内の様々な地域にアクセスが可能。
- ・アジアを中心に就航路線を有しており、アジアと日本の国内各地を結ぶネットワークの要となっている。
- ・ビジネスジェットの出発機利便性が高く、受入拡大の可能性を有している。県営名古屋空港に整備されているビジネスジェットターミナルとの連携を図ることで、相乗効果の発現が期待される。

(3) 国際空港隣接地としての強みと後背圏人口による集客力

- ・空間的なゆとりを有しており、拡張性のポテンシャルが高い。
- ・直近ではコロナ禍の影響を強く受けているものの、国際空港に隣接する立地であることに加え、今後リニア中央新幹線の開業を控える名古屋市とのアクセスも良好であることから、高い集客力が期待される。
- ・新たな大規模集客イベントも、当地域であれば全国各地から集客が可能。

(4) 最先端技術を活用した次代の地域づくり

- ・愛知県には製造業を中心に世界的シェアを有する企業が数多く立地し、最先端技術が集積している。これらの資源を最大限に活用し、豊かさを高める技術として発展させていくことが期待されている。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響

- ・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が、航空機産業や観光産業へ大きな影響を及ぼしている。
- ・中部国際空港や Aichi Sky Expo においても、国際線の旅客便の減便や展示場の利用者数の減少など新型コロナウイルス感染症の大きな影響を受けており、このような中、各施設では感染防止対策の取組を進めている。